

アウンサンスーチーの ビルマ —民主化と国民和解への道—

根本 敬

210781109 水野友乃

本書の目的

- ・アウンサンスーチーについて
→思想の骨格についての紹介
- ・アウンサンスーチーの非暴力主義
→延長線上にある和解志向の特徴を考察すること

目次

- 1章 半生を振り返る
- 2章 思想の骨格
- 3章 非暴力で「暴力の連鎖」を断つ
- 4章 国民和解への遠き道のり

1章 半生を振り返る

a) アウンサンスーチー (Aung San Suu Kyi)

ア) 1945年6月19日生まれ

イ) 父：独立運動の指導者 母：看護師

b) 15歳でインドへ → 人生最初の転機

ア) 母の影響で4年間

イ) 議論好き、考える人に成長

1章 半生を振り返る

c) オクスフォード大学への留学

ア) 1964年9月念願のセント・ヒューズ

イ) 道徳、倫理観の激変期



学生の行動が政治的・社会的に盛んになる中、
スーチャーは保守的な態度を一貫

d) 1972年 結婚

1章 半生を振り返る

e) 祖国の民主化運動を率いる

ア) 1988年短い演説で民主化運動デビュー

イ) 同年7月ネイウィン批判演説

→最初の自宅軟禁へ

f) ノーベル平和賞の受賞

非暴力による民主化運動の指導が評価

1章 半生を振り返る

g) 解放、再軟禁

ア) 1995年7月 解放

→行動制限を受け、抵抗→再軟禁

h) 再解放と3度目の軟禁

→民主化の進展を期待→軍事施設に監禁
されたのち軟禁

→2010年11月13日解放

2章 思想の骨格

- a) 骨格の6つの特徴
 - ア) 恐怖から自由になる
 - イ) 正しい目的は正しい手段によってのみ達成される
 - ウ) 心理の追求
 - エ) 「問いかけ」をもって生きる
 - オ) 社会と関わる仏教
 - カ) 真理にかなった国民

2章 思想の骨格

b) 恐怖から自由になる

→一人ひとりが恐怖を克服→民主的な体制
へ

c) 正しい目的は正しい手段によってのみ達成される

→達成に至るまでの手段が正しいかを重視する価値観

2章 思想の骨格

d) 心理の追求

→常に客体化する努力を行うこと

e) 「問いかけ」をもって生きる

→自律的に取り組む人間を育成することが
大切

2章 思想の骨格

f) 社会と関わる仏教

→現実の問題に関与する姿勢を僧侶も仏教徒も持つべき

g) 真理にかなった国民

→理想を提示し、ナショナリズムに反映

3章 非暴力で「暴力の連鎖」を断つ

a) 戦術としての非暴力

→非暴力主義の真意

→精神的な信念

b) 「暴力の連鎖」

→英国の植民地統合

→下ビルマ農民大反乱

3章 非暴力で「暴力の連鎖」を断つ

c) 日本占領期の暴力

→空襲、憲兵隊、軍による虐殺

→泰緬鉄道建設工事

d) 民主化運動のなかの暴力

→飲水に毒、ナイフで首

4章 国民和解への遠き道のり

- a) アウンサンスーチーの最終的開放
 - 3度の軟禁の合計15年2か月
 - 自由に→政治活動を再開→国民と接触
- b) 国民和解の推進→3つに分類
 - ア) 軍と国民の間の不信感を解消
 - イ) 少数民族問題を克服
 - ウ) 宗教間対立を解決

4章 国民和解への遠き道のり

・ロヒンギャ問題

ロヒンギャとは誰か、定義は？

- ・ロヒンギャとは誰で、人口がどれくらいなのか。という質問に回答することはとても難しい。アイデンティティの輪郭がはっきりしていない。また、統計があてにならず、正確な人数が分からない。
- ・ロヒンギャを広く定義すると、ラカイン州出身のムスリム、ロヒンギャの自覚がある人のこと。また、自覚がなくても、他の民族的アイデンティティを特に持っていない人々のこと。

まとめ

- アウンサンサーチャーの思想の骨格についての6種を理解
- アウンサンサーチャーが生きる現代ビルマのナショナリズムは排他的
- 排他的ナショナリズムから包摂的ナショナリズムへの変化も可能